

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
60234	2007/03/23	61006	トリパノ ソーマ症	FDA News P06-198 2006 年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。	33
70034	2007/04/27	70150	トリパノ ソーマ症	Transfusion 2007; 47: 540- 544	神経芽細胞腫(ステージ4)を発症した3歳半の女兒が複数の血液成分製剤投与を受けた後、Trypanosoma cruziによるシャガス病と診断された。輸血された製剤の全供血者の血液を再検査したところ、初回供血者1名がT. cruzi抗体陽性であることが判明した。当該供血者は、ボリビア出身であり、17年前に米国に移住した。移住後は母国に帰国していない。本症例は、米国・カナダでの輸血によるシャガス病感染の7例目の報告である。シャガス病スクリーニング検査が必要であることを示している。	34
60248	2007/03/30	61061	トリパノ ソーマ症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある供血者に対し、シャガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas, Chagatek, Ortho T.cruzi ELISA Test System '1, ELISA Cruzi の4種類のTrypanosoma cruzi ELISAキットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性に関しては4種類の検査法で正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%だった。	
60248	2007/03/30	61061	パルボ ウイルス	Transfusion 2006; 46:1593- 1600	パルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血がパルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。	
60248	2007/03/30	61061	マラリア	AABB Weekly Report 2006年9 月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。	
60237	2007/03/27	61024	マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。	
60248	2007/03/30	61061	マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグゼーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月~6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。	
60248	2007/03/30	61061	マラリア	Eurosurveillanc e 2006年11月 16日	2006年8月にコルシカ島で三日熱マラリア1症例が診断された。フランス南東部出身の59歳男性で、2006年夏に南コルシカのポルトに滞在していた。患者はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。マダガスカルに渡航歴のある三日熱マラリア患者が7月初めに同地区に滞在しており、コルシカのハマダラカによってP. vivaxの国内伝播が起こったことを示唆している。本症例は、この地域で報告されたマラリアの地域内伝播の1972年以来初の症例である。	35

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
60248	2007/03/30	61061	マラリア	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1): 070111	輸入感染症サーベイランスに関するヨーロッパネットワークへの報告数によると、2006年11月下旬以降、インド、ゴア州への渡航者において、熱帯熱マラリア患者が増加している。1月10日までに、ドイツで2例、デンマークで4例、スウェーデンで2例、計8例の患者が報告された。	36
60248	2007/03/30	61061	マラリア	ProMED-mail20061004.2843	中国東部の安徽省でマラリア感染が拡大している。地元の保健当局によると、今年に入ってから2006年9月25日時点で17917例が報告されており、昨年の同時期と比較すると89.8%増加している。保健当局は緊急通告を出して、感染の監視を強化し、拡大防止のためにマラリア予防と治療に関する啓発を行うよう地元自治体に要請した。	
70048	2007/05/22	70198	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。	37
60234	2007/03/23	61006	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症 (TSE) 諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子 (FVIII) 製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。	38
60248	2007/03/30	61061	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。	
60248	2007/03/30	61061	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病 (CJD) が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm ² あたり0.2 μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。	
60255	2007/03/30	61068	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006年12月15日 5-6ページ	米国で製造された血漿由来の第Ⅷ因子製剤による患者へのvCJD病原体伝播のリスクは、極めて低いと見られる。生物製剤評価調査センター (CBER) のSteven Anderson博士は、「しかし、リスクはゼロではない」と伝達性海綿状脳症 (TSE) 諮問委員会の本日の会合で話した。CBERは、2005年10月31日の委員会で提示されたコンピューターモデルと仮説に基づいたリスク分析案の概要を示した。重要度解析では、リスクを決定する主要な要素は、製造工程におけるvCJD感染因子の低減である。	39
70023	2007/04/26	70137	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2007年2月9日 7-8ページ	将来のvCJDによる死亡率は、供血に関する公衆衛生上の施策によって予想されていたよりも遙かに低くなるだろうと英国の研究者が報告した。Royal Society Journal Interface誌オンライン版によると、2080年までの輸血によるvCJDの死亡例は50例と予測される。感染牛の摂食によるvCJD感染が排除されたため、現在では輸血による伝播が最も可能性が高いと研究者は話している。	40

血刻ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
60234	2007/03/23	61006	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	CDC 2006年11 月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂食したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。	41
60234	2007/03/23	61006	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	FDA/CBER 2006年10月15 日 FDA/TSEAC Meeting 2006年 12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee)は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。	
70027	2007/04/26	70141	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	FDA/CBER 2006年11月27 日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。製造工程での原因物質除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動する。	42
70055	2007/05/24	70213	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	FDA/CBER 2007年3月15日	FDA、CDCおよびNIHを含む米国Public Health Serviceは、米国で承認された血漿由来第VIII因子製品を投与された血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者のvCJDリスクは極めて小さいとの見解を示した。血漿由来第IX因子を含む他の血漿由来製品によるvCJDリスクは同程度もしくは更に小さいと思われる。	43
70006	2007/04/23	70089	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	FDA/TSEAC Meeting 2006年 12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee)は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。	44
60234	2007/03/23	61006	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Future Virol 2006; 1: 659- 674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイピー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。	
60234	2007/03/23	61006	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。	
60248	2007/03/30	61061	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。	45

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
70006	2007/04/23	70089	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.2007.0216 Published online	血液由来のvCJDの流行の大きさを探るために感度分析を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数学的モデルを開発し、悲観的モデリング仮定で評価すると、自己持続的流行が起こるならば2080年までに900例以内、楽観的仮定では250例以内となった。大規模な又は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが実現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措置等の公衆衛生的介入が有効である。	46
70021	2007/04/25	70125	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 9104-9114	ヘラジカのプリオン(ElkPrP)またはシカのプリオン(DePrP)を発現するトランスジェニック(Tg)マウスを作成したところ、600日齢以上でも自発的な神経学的異常は示さなかった。これらのマウスに慢性消耗病(CWD)陽性のヘラジカまたはシカの脳検体を接種したところ、Tg(ElkPrP)マウスでは180-200日後に、Tg(DePrP)マウスでは300-400日後に、発病した。発病したマウスの脳にはPrPアミロイドプラークが多数見られた。ヒト、ウシまたはヒツジPrPを過剰発現したTgマウスはCWDプリオン接種後500日以上経っても発病しなかった。	47
60248	2007/03/30	61061	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ照会され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫プロットング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。	48
60234	2007/03/23	61006	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	LANCET 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aとについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイパーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。	49
60248	2007/03/30	61061	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質Alicon Prion Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁中にPrPScの前駆体であるPrPCを同定することができた。PrPCの絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中で $\mu\text{g}/\text{l}$ レンジ、ヒト乳汁中では ng/l レンジであった。PrPCは、均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温処理を施しても内因性PrPC濃度はわずかに減少しただけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感染源となる可能性を示唆する。	50
60234	2007/03/23	61006	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。H型と呼ばれる高分子量のフランスのウシPrPres分離株を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、死亡し、これらの株が感染性プリオンの新規株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイパー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。	

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
70023	2007/04/26	70137	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイビー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルポールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因ビリオンである可能性がある。	51
60248	2007/03/30	61061	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	ProMED- mail20070108.0 081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)46名で、死亡患者総数は158名である。生存中のvCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。	52
60248	2007/03/30	61061	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。	
70021	2007/04/25	70125	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Vaccine (2006), doi:10.1016/j.va ccine.2006.10.0 58	ヒトや動物におけるTSEの多様性を解明するため、PrPresの詳細な特徴が研究されている。分子学的な方法により、最近、ヨーロッパと米国の感染牛で異常なBSE型が発見され、少なくともBSE牛の何例かには別の起源の可能性が出てきた。小型反芻動物での新しいTSE型は「非典型的スクレイビー」または「Nor98」と呼ばれ、ヨーロッパの大部分の国でTSE迅速検査で同定されている。	53
70021	2007/04/25	70125	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Vet Rec 2007; 160: 215-218	カナダで乳牛のBSE感染が確定したことで、牛肉だけでなく牛乳や乳製品が病原体プリオンを含有しているかが大衆の関心事となった。このレビューは、牛乳や初乳中のプリオン、ならびに種々の動物系における垂直および水平感染に関する研究から牛乳の安全性に関するエビデンスを検討した。エビデンスは牛乳の消費による新たなvCJD感染のリスクは無視できることを示した。	54
60248	2007/03/30	61061	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Vox Sanguinis 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で、脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。	
70017	2007/04/25	70121	異型ク イツフェ ルト・ヤ コブ病	Vox Sanguinis 2006; 91: 221- 230	散在性(s)、家族性(f)および異型(v)クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)が輸血を介して感染伝播するかを判定するために、英国CJDサーベイランスユニットと血液サービスにより進行中の試験の2006年3月1日までの結果である。供血者として報告されたvCJD 31例中18例、sCJD 93例中3例およびfCJD 5例中3例の血液が、各々、66例、20例および11例の受血者へ輸血されていた。2例の受血者においてvCJDが確定していた。また、vCJD11例中7例、sCJD52例中7例が、輸血の既往歴があった。	55

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
70017	2007/04/25	70121	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なる調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60°Cで10時間処理した。異なる溶液中のB19は加熱中異なる熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なる調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。	56
60234	2007/03/23	61006	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	輸血と関係した新たなvCJD疾患(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けてから約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定された1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。	57
60237	2007/03/27	61024	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けた約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定されたvCJD1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。	58
60237	2007/03/27	61024	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(プラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。	
60248	2007/03/30	61061	感染	Blood 2006; 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン (GSH) を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatitisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。	59
60248	2007/03/30	61061	狂犬病	ProMED-mail20061118.3 303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。	60
60234	2007/03/23	61006	結核	NIKKEI NET いきいき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。	61

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	
60241	2007/03/28	61036	細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 1068-1073	Mycobacterium bovisはニュージーランドの野生動物や家畜を宿主とする。1995-2002年のヒト結核症例を疫学的、臨床検査学的に調べた結果、確定症例1997例中54例(2.7%)がM.bovisで、10万人当たり0.2人の割合であった。ヒトからの単離体23例中14例がウシ、シカ、オポッサム、フェレット、ブタ、ネコからの単離体と同一の制限酵素分析パターンを示した。ニュージーランドでは動物宿主からヒトへの伝播が低レベルで続いていることが示唆された。	62
70017	2007/04/25	70121	重症急性 呼吸器症 候群	Transfusion 2006; 46: 1770- 1777	血液由来製品を模した蛋白質溶液中の重症急性呼吸器症候群コロナウイルス(SARS-CoV)を不活性化する方法として、加熱、UV照射、オクタン酸、溶剤/界面活性剤(S/D)法を検討した。その結果、60°Cで15-30分間加熱および40分間UVC照射はSARS-CoVを不活性化した。UVA照射はソラーレン添加を必要とし、オクタン酸処理はSARS-CoVを不活性化できなかった。S/D処理は、SARS-CoV不活性化に、Triton X-100は2時間、Tween 80は4時間、石炭酸ナトリウムは24時間を要した。	63
60248	2007/03/30	61061	鳥インフ ルエンザ	Eurosurveillanc e 2006; 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染患者258名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散发例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警報システムを堅持する必要がある。	64
60248	2007/03/30	61061	鳥インフ ルエンザ	ProMED- mail20061201.3 394	WHOは、H5N1鳥インフルエンザウイルスにより光を当て、パンデミック株への変異の検出を容易にするために、H5N1鳥インフルエンザのヒト症例調査のためのガイドラインを発表した。14ページのガイドラインは、患者の問診、周辺で他の症例を捜索することによる接触歴の調査、ヒト-ヒト感染の何らかの徴候を発見するためのデータのふるいわけなど、各症例の徹底的な調査を求めている。ガイドラインでは、臨床検査の結果が出る前に疑い症例の調査を行うことを要請している。	65
60248	2007/03/30	61061	鳥インフ ルエンザ	ProMED- mail20070120.0 260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口孵卵場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。	66
70006	2007/04/23	70089	鳥インフ ルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452- 459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンに対するパスツール法、静注用免疫グロブリン(IVIG)に対するSD処理、第VIII因子インヒビターバイパス活性に対する蒸気加熱、及びIVIGに対する低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルス不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活性化処理によって効果的に不活性化された。	67
60234	2007/03/23	61006	梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。	68

